

宮崎市立住吉中学校の学力向上への取組

1 学校の概要

(1) 学校の沿革

| | |
|--------------|--------------------|
| 昭和 22 年 | 住吉村立住吉中学校として創立開校 |
| 昭和 28 年 | J R C (青少年赤十字) 加盟 |
| 平成 15 ～ 16 年 | 学力向上フロンティアスクール指定校 |
| 平成 16 年 | 中国胡芦島市実験中学校との友好校締結 |

(2) 学級数及び生徒数(平成17年11月1日現在)

| 区 分 | 1 年 | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 学級数 | 5 | 5 | 5 | 1 | 16 |
| 生徒数 | 166 | 171 | 172 | 2 | 511 |

2 生徒の実態

(1) 学力調査の結果(平成17年5月実施:2年生)

| 区 分 | 国 語 | 社 会 | 数 学 | 理 科 | 英 語 | 計 |
|----------------|------|-------|------|------|------|-------|
| 自校の平均点(県平均との差) | +0.7 | +10.9 | +2.0 | +2.0 | +2.8 | +18.4 |
| 県 の 平 均 点 | 80.6 | 60.6 | 67.8 | 66.5 | 75.7 | 351.2 |

(2) 学力調査結果にみる課題

- ・ 各教科の平均到達度は、県平均を超えているが、わずかである。また、数学、理科において、知識・理解の観点の平均到達度が他の観点と比較して低いので、基礎・基本の定着を図っていく必要がある。
- ・ 国語において、話す力、聞く力と書く力が県平均を下回っているため、その向上の手立てを講じる必要がある。

(3) 意識調査結果にみる課題

- ・ 学びの基礎力の中で「正しい姿勢で学習している」の数値が低い。また、社会的実践力の中で、「お年寄りや障害のある人に、進んで手助けをしたことがある」の数値が特に低いので改善を図る必要がある。
- ・ 家庭での指導・活動の項目で「計画的な学習や規則正しい生活」の割合や「将来の夢や進路について家族と話す」の割合も低いので、家庭との連携を図り、生徒の意識の向上を図っていく必要がある。
- ・ 平均学習時間や1ヶ月に読む本の平均冊数が県の平均より低いので、その向上に取り組む必要がある。

3 学力向上に向けた経営方針

本校は、平成 15 年度に学力向上フロンティアスクールの指定を受けたのを契機に、2 年間にわたり生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図ってきた。研究の成果としては、「漢字ライセンス」や「クスの木タイム」などの全校的な取組が定着したこと、生徒の学習意欲が高まってきたこと、家庭での学習時間が増加したことなどがあげられる。しかしながら、学力の向上はまだ十分とは言えず、今後も指導力の向上を図りながら、基礎的・基本的な内容の確実な定着や確かな学力の育成に努めていく必要がある。

そこで、学力向上フロンティアスクールとしての研究の成果と課題をふまえ、小学校との連携を新たな視点に加えながら、基礎・基本の定着のための実践的な研究を行っていくこと。また、全学年で朝の読書活動に取り組み、生徒の感性や思考力、表現力、創造力等の能力を伸ばすこと。さらに、数学科、英語科における少人数指導を中心に、全教科で個に応じた指導の工夫・改善に努めていくことを重点事項として掲げ、実践研究を推進していく。

4 教育課程内の取組

(1) 「確かな学力」の基盤となる読む能力や書く能力の向上につながる手立てや各教科における基礎的・基本的な知識や技能の定着を図る手立てを講じる。

- ① 各教科等の学習内容の理解を高めるため「漢字ライセンス」と称して、小中学校で学習した漢字の習得に全校で取り組んでいる。基本的な漢字については90%以上の生徒が書けるようにしている。
- ② 基礎的・基本的な知識や技能の定着を図るため、授業開始前の2分間を「クスの木タイム」として、各教科で工夫した自作のプリントなどに取り組ませている。「クスの木タイム」の確認テストを年1回実施し、平均80点以上にすることが目標である。
- ③ 朝の全校一斉読書の充実を図ったり、各学級で1分間スピーチに取り組むことで、全員が自分の考えを人前で発表できるようにする。

「クスの木タイム」で取り組む内容

| 教科 | 内 容 |
|-------|---|
| 国 語 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字ライセンスの予習プリントを行う。 ・ 授業に添ったプリントを行う。 |
| 社 会 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の都道府県名を漢字で覚える。 ・ 世界の山地・山脈・河川名・国名等を覚える。 ・ 歴史上の人物名を覚える。 ・ 公民的分野の知識を覚える。 |
| 数 学 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 計算のドリル問題をを行う。 ・ スピードテストを行う。 |
| 理 科 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 実験器具の名称を覚える。 ・ 実験の仕方を覚える。 ・ 授業につながるプリント学習を行う。 |
| 英 語 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 単語を覚える。 ・ 基本文を覚える。 |
| 保健体育 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 運動場での基本トレーニング（ランニング等）を行う。 ・ 体育館での基本トレーニング（ランニング等）を行う。 |
| 技術・家庭 | <ul style="list-style-type: none"> ・ キーボード操作を練習する。 ・ 授業の見通しを立てる。（計画書の作成） ・ 栄養素の種類と働きを覚える。 ・ 生鮮食品と加工食品の特徴を覚える。 |
| 音 楽 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器の演奏練習を行う。 ・ 名曲を鑑賞する。 |
| 美 術 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 4コマ漫画を作成する。 ・ 鑑賞を行う。 ・ デッサンをする。 ・ イラストを描く。 |



朝の読書の様子

(2) 個に応じた指導の工夫・改善, 個に応じたきめ細かな指導により, 確かな学力を身に付けさせる。

- ① 全ての学年の数学と英語で習熟度別少人数指導を実施し, ワークシートや小テストの活用, 学習形態の工夫など一人一人の生徒に対するきめ細かな指導を通して, 基礎的・基本的な内容の定着の徹底を図っている。

二次方程式 $x^2 - 5x + 6 = 0$ の解を求める。

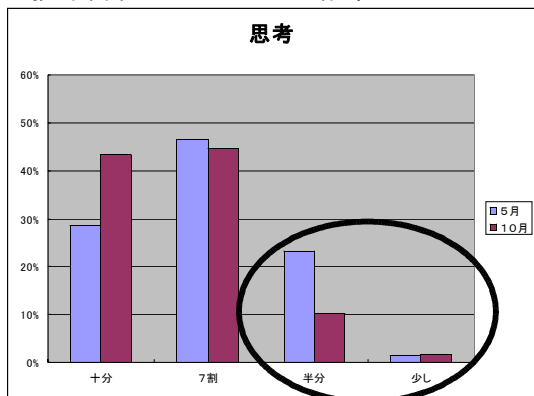
| | |
|--|---|
| <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> □ □ コース </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 二次方程式 $x^2 - 5x + 6 = 0$ の解を計算で求めてみよう。 </div> <p>① 二次方程式 $x^2 - 5x + 6 = 0$ の解を計算で求める方法はないか考えてみよう。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">生徒の発想</p> <p>② 左辺を因数分解することによって解を導いてみよう。</p> $x^2 - 5x + 6 = 0$ $(x - 2)(x - 3) = 0$ <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">生徒の思考力</p> <p>$x = 2, x = 3$ なぜこうなる?</p> <p>③ 因数分解による解法の考え方を整理しよう。</p> <p>④ 練習問題をしてみよう。 個別指導 基礎問題 応用問題</p> | <div style="text-align: center; border: 1px solid black; border-radius: 5px; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> ○ ○ コース </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 本時に必要な既習内容の復習 </div> <p>今日の学習では因数分解の考え方が必要になります。復習してみよう。</p> <p>$ax + b$ $x =$ ⇒ 既習事項の復習</p> <p>$x^2 + 5x + 6 =$</p> <p>$x^2 - 2x - 8 =$</p> <p>$x^2 + x - 6 =$</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;"> 二次方程式 $x^2 - 5x + 6 = 0$ の解を計算で求めてみよう。 </div> <p>① まず, 適当に数をあてはめてみて何とか解を探し出そう。 ⇒ 直観の利用</p> <p>② その解を計算で, 簡単に探す方法を知ろう。</p> <p>③ 左辺を因数分解してみよう。 ⇒ 考え方の提示</p> $x^2 - 5x + 6 = 0 \dots \text{ア}$ $(x - 2)(x - 3) = 0 \dots \text{イ}$ <p>④ アにあてはまる x を探すということは, イにあてはまる x を探すということ。</p> <p>⑤ $\square \times 5 = 0, -3 \times \square = 0$ のとき, \square はなにか。 ⇒ 考え方の補足</p> <p>⑥ $AB = 0$ ならば, $A = 0$ か $B = 0$ (かけて 0 ならば, どちらかが 0)</p> <p>⑦ ⑥の考えを</p> $(x - 2)(x - 3) = 0$ <p>に照らし合わせて考えると,</p> $x - 2$ と $x - 3$ をかけているので $x - 2 = 0$ か $x - 3 = 0$ <p>⇒ 丁寧な解説</p> <p>⑧ これより $x = 2, x = 3$</p> <p>⑨ もう 1 題みんなで解いてみよう。 ⇒ 確認</p> <p>⑩ 自分で練習問題をしてみよう。 ⇒ 個別指導 基礎問題</p> |
|--|---|

習熟度別学習指導例

② 毎日の授業では, 事前に生徒のつまづきを予想し, その手立てを講じることや, 学習意欲の低い生徒あるいは高い生徒への手立ても準備して授業に臨むようにしている。

③ 生徒を対象にした授業評価のアンケートを定期的実施し, 「興味・関心」, 「思考」, 「理解」の 3 つ観点で分析してきた。それぞれの観点で, 「半分」程度と「少し」だけと答える生徒の割合が 20% 以下になるように授業の改善を図っている。

授業評価のアンケート結果



左の図は, 授業中に「じっくりと考えているか」について生徒が答えた結果である。(現 2 年生が 1 年時の社会科)


「半分」と「少し」を合計した数値の県平均は 30% である。5 月の結果は 25% ですので県平均よりよかったが, 10 月には 12% と更により割合となった。

④ 問題解決的な学習における授業後の評価についても, 自己評価・作品・ワークシートなど一人一人の評価を的確に行うよう工夫してきた。

5 教育課程外の取組

- (1) 小中の連携により学習習慣等の定着を促進する。
 - ① 小学校と連携して一貫した指導を行うことで、学習習慣を身に付けさせる。
 - ② 中学校からの教師派遣や小中合同研修会(8月実施, 12月実施)を開催する。
 - ③ 基礎・基本(特に知識・理解)の定着プリントを小中で協力して作成する。
- (2) 教師の指導力を高める授業研究会を実施する。一つの授業を全員で見る授業研究会を年間2回以上もち、個に応じた指導の工夫・改善について協議する。(11月と12月に実施)

6 保護者・家庭、地域との連携

- (1) 「クスの木タイムズ」という通信を定期的に発行し、基礎学力定着のための取組を家庭に知らせ、家庭学習の習慣化に関して保護者の協力をお願いした。

「クスの木タイムズ」は、学力向上フロンティアスクールに指定されている在吉中学校の取組や学力向上に役立つ資料・情報を保護者や生徒のみなさんに提供しています。また、取り上げてほしい内容がありましたら、下記の連絡欄にご記入の上、担任にご提出下さい。

基礎学力ってなあに？

基礎学力とは、中学校で学ぶ各教科(国語、社会、数学など)における基礎・基本の確実な習得を図るために、「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」などの観点からとらえた資質や能力を支えたり、前提となったりする学力です。

分かりやすく言うと「読み」「書き」「計算」(英語で言えば単語の読み書きなど)ということですよ。
- (2) 家庭での学習の習慣化を図るため、各教科で課題の与え方を工夫している。また、生徒の家庭での学習時間が県の平均を超えるように、宅習帳も各学年提出させている。
- (3) 地区懇談会や家庭教育学級、学級懇談において、学力向上に関する話合いの場を設けている。

7 成果と課題(次年度の取組を含む)

(1) 研究の成果

- ① 授業開始前2分間の「クスの木タイム」が定着し、生徒が授業の始めから落ち着いた雰囲気を取り組むようになってきている。漢字の読み書きや朝の読書、基礎的・基本的な知識や技能の定着を図ったことで、授業に集中し、じっくりと考えるようになった。
- ② 生徒のつまずきを予想し、学習意欲の低い生徒への手立てを講じたことで、多くの生徒が学習内容をより理解できるようになっている。数学科、英語科では、少人数指導を通して生徒の実態を把握し、それぞれの生徒に応じたよりきめ細かな指導ができるようになってきている。生徒による授業評価では、「十分理解できている」と答える割合が高くなってきた。

(2) 今後の課題

- ① 「クスの木タイム」などの取組を改善しながら継続していく必要がある。
- ② 家庭との連携を具体的に深めていく必要がある。
- ③ 小中合同研修会の充実を図る必要がある。